八尾市教育センターNEWS

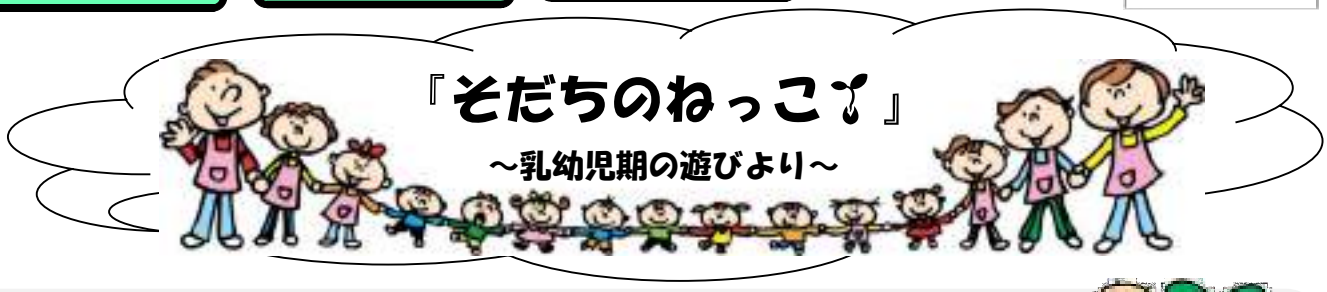
令和6年11月
所報：403号

相談支援係
072-941-3365

情報チーム
072-943-5785

研究研修係
072-943-5784

教育センター
Web page は
こちらから



【「せんせい見て！チョウチョ、つまかえた！（つかまえた）」 ～大人が安心の基地としてあり続けるわけ②～】

10月18日（金）、２歳児の子どもたちが遊ぶ様子を見学してきました。手に虫取り網と虫かごをもち、背中にはバッタの羽をつけていたり、４歳児の真似をして、帽子を反対向きに被り忍者になりきっていたりする子どもたちが、元気よく園庭に出てきて、「今日も虫つかまえるねん！」「せんせい、ちゅうがっこういこう！」と自分がしたいことを口々に伝える姿がありました。

扉１枚で隣接する中学校のグラウンドに行くことができる環境を活かし、よく虫探しに行っているということでした。「チョウチョおるかな～？」「どこにおる？」など、保育者や近くにいる友だちに言いながら、一生懸命探していました。空中に動いている小さなものを探すことがまだ難しい子どももいる中、保育者も一緒に探し、「きたきた！」と指を差し伝えていました。「あっ、チョウチョ見つけた！」との声と同時に網を振り回して捕まえようとしたり、「あかんで！みんなのチョウチョやで」と自分が捕まえたい一心での発言をしたりするなど、一人ひとりの楽しみ方で虫探しをしていました。

また、保育者が捕まえた『バッタ』や『カマキリ』を虫かごに入れてもらうと、じーっと観察しているかと思うと、飛行機の音に反応して「あっ、ひこうきや！」と飛行機に手を振ったかと思うと、「あっちになんかおるかな？」と走り出したり「せんせい！」と先生を見つけてにっこりと笑いながら手を振ったり…と、目や耳からの情報によって、興味があちこちに向き、行動したり言語化したりする２歳児らしい姿が、とてもかわいらしく印象的でした。

草むらで虫を探していたＡ児が「せんせい見て！チョウチョ、つまかえた！」と網に『シジミチョウ』が入ったことに驚きと興奮しながら何回も伝えていました。Ａ児の様子を見た保育者は、自分で捕まえた経験がとても嬉しかったことを感じ、「すごいね！Ａくん自分で捕まえられたんやね」と興奮と嬉しさを丸ごと受けとめていました。Ａ児はその後も、『シジミチョウ捕り』にはまり、２回ほど成功していました。虫かごに入れるときに逃げてしまうこともありましたが、保育室に入る前には「虫、逃がしてあげる」と虫かごを開けてもらっていました。そんな中、自分の目の前から飛んでいかないカマキリに「なんでいなくならないの？」としばらく見ていました。Ａ児が羽根を触って広げようとしたので、「今は飛びたくないのかもね」と、保

育者がそっと手にのせて草の中へ放しました。目の前からいなくなった事実に A 児は納得し、保育室へ戻っていきました。この日の A 児は自分でできたことを自信にして、「もう一回！」という意欲と『網で虫を捕まえる楽しさ』を味わったんだと思いました。

保育室では、子どもの手で扱いやすい手作りの虫カードが３セットあり、捕まえた虫をカードと見比べる子どももいました。きっと、「かして！」「いや！」などのトラブルも繰り返しながら、一人ひとりの満足が満たされるような数が用意されていることにも、保育者の細やかな配慮を感じることができました。

前号の『そだちのねっこ』にて、『安心基地（保育者）』がいるという安心を感じることで、自分から『外の世界』へ行こうとする気持ちが芽生えます。【『安心基地と外の世界』を行ったり来たり繰り返すこと＝『安心感の輪』】こそが、生涯発達の土台となります。また、『外の世界』では、発達年齢に合った、心をくすぐる環境や玩具の準備、保育者のかかわりや声かけが大事になることをお伝えいたしました。

この虫探しのエピソードからも、安心感の輪を回りながら、自己肯定感を育み、やりたいことを尊重されることで、自分の力を広げていることがわかりました。保育者は、子どもが集中しているときはそっと見守り、「見て！やって！」の要求にタイミングよくかかわり、外遊びと室内遊びや生活などがリンクでき、且つ２歳児に扱いやすい環境（教材・素材・道具・空間など）を整えることが求められます。そして、危険がない限り、「自分でやりたい！」を安心して実現できる温かなまなざしとエールを伝えることも忘れてはいけません。そうした保育者の役割によって子どもたちの『安心感の輪』が保持できることで、いろいろな経験に対する興味や意欲となります。その心の育ちこそが、非認知能力につながるとも言えます。

今回のエピソードを、【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】に関連させてみると、『健康な心と体』『自立心』『自然との関わり・生命尊重』につながる芽生えがありました。

【『そだちのねっこ』（その後、エピソード）】

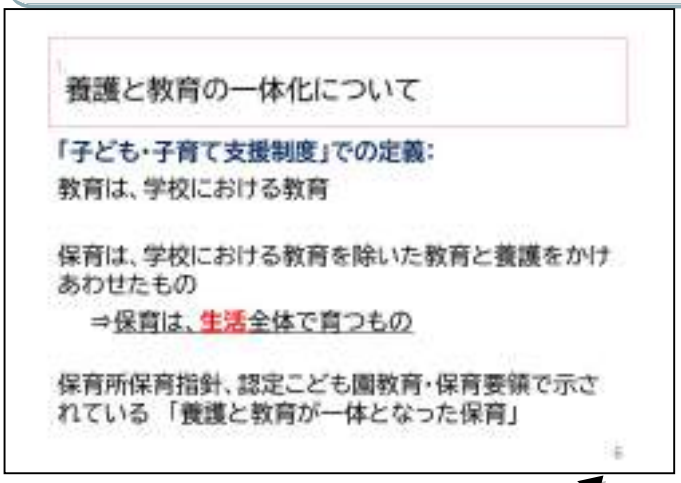
入園したときは、不安いっぱいでずっと先生のシャツの裾をもってひっついていたNがもう中学生になりました。園のときに先生に丁寧に寄り添ってもらいながらも、Nの興味をそそる遊びや「やりたい」を実現でき、思う存分経験させてもらったことで、卒園時には、めちゃくちゃよくしゃべり、自分からやってみる姿に変わったことを我が子ながら驚きました。

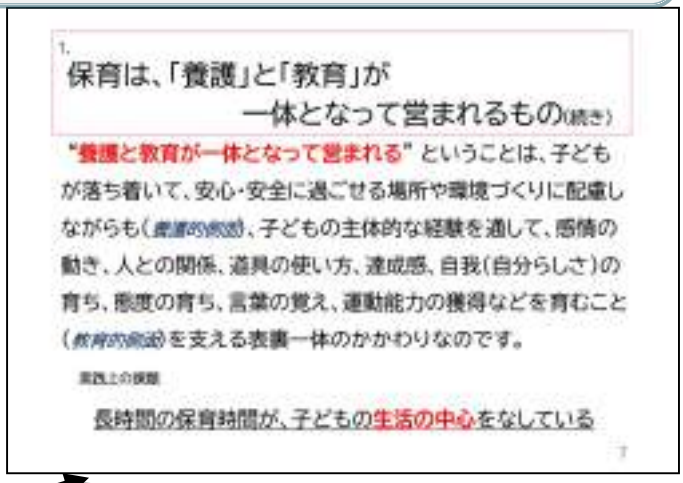
小学校入学時は、字も書けなかったですが、全然そんなことは問題ではなかったです。中学生になった今、いろいろなことに意欲や好奇心、協調性などを保ち、自ら生徒会へ立候補し、一員として張り切って取り組んでいます。「あの子が生徒会ですよ！」「N は園で遊びから多くのことを学び、今のNの姿になったと思っています」と笑いながら、とっても嬉しそうにNの保護者から話をきかせてもらいました。

このような保護者からの話と姿から、就学前での『そだちのねっこ』から、切れることなく芽を出しスクスクと育ちや学びがつながり、活きていると知れました。幼児教育で大事にしている、『遊び』を通した学び（＝非認知能力）が、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な役割であることを改めて実感しました。

＜７年前に卒園し、現在中学生になったNの保護者の声より…＞

幼児教育研修＜初任ステージ研修②＞





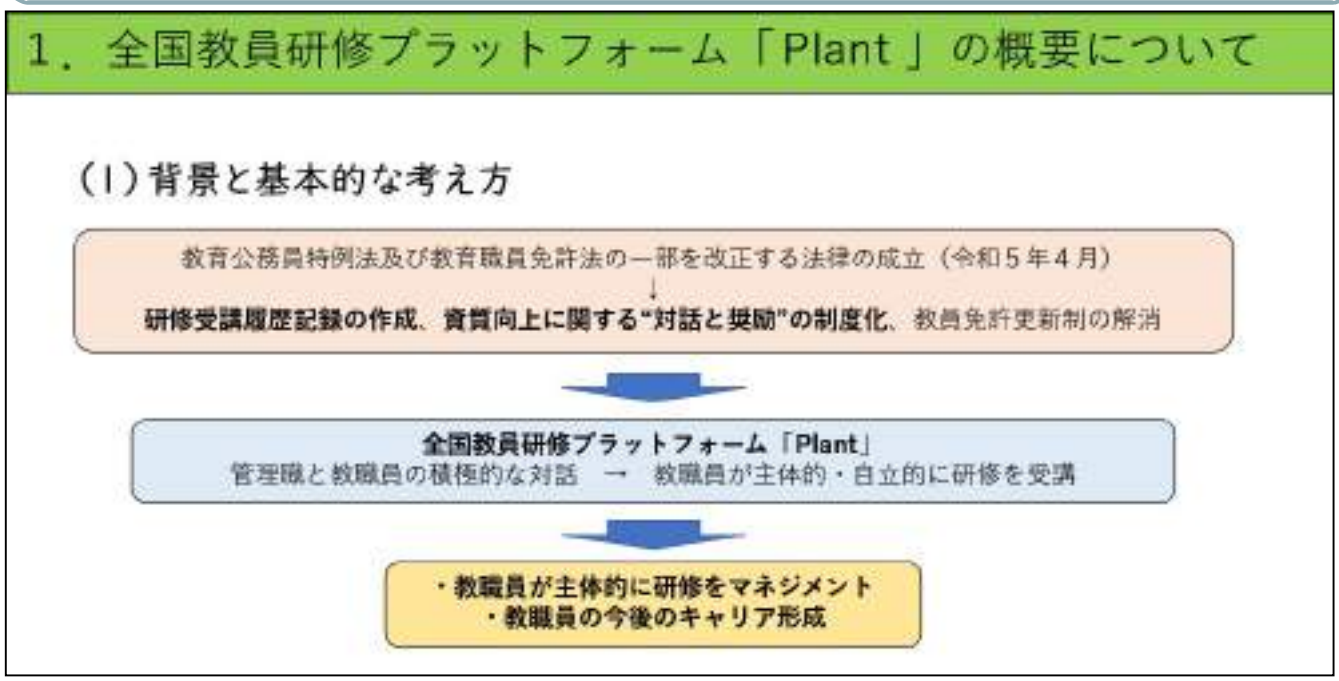
研修資料の一部

令和６年 10 月 21 日（月）午後３時～午後５時に幼児教育研修＜初任ステージ研修②＞を本市水道局大会議室で行いました。講師は大阪総合保育大学　髙根　栄美　准教授で、研修テーマは「保育環境　子どもが遊びたくなる保育環境づくり　」です。

＜受講者感想＞

- 時々に応じて環境を動かすことが大事なのではなく、動かさないで固定することで、子どもの安心感や遊びやすさにつなげることが大事であるということが分かった。
- 乳児期の経験が、幼児の生活や遊びに繋がっていることを再確認できたので、乳児クラスでも様々な経験ができるように、環境や遊びを工夫していきたい。
- 年齢に応じた配慮や環境設定を今一度見直し、子どもから「自分でできる」を奪わないように心掛けていきたい。

全国教員研修プラットフォーム Plant 管理職説明会



令和６年 10 月 25日（金）午後３時３０分～午後５時に全国教員研修プラットフォーム Plant 管理職説明会を行いました。講師は本センター　吉田　光秀　指導主事です。令和４年度の教育公務員特例法及び教育職員免許法の一部を改正する法律により、「研修受講履歴記録の作成」及び「研修受講履歴等を手掛かりとした資質向上のための対話と奨励」の仕組みが示

され、令和５年度より制度化されました。また、令和４年度の中央教育審議会答申において、「教師の新たな学び」とは、「新たな子どもの学び」、つまり「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実した「主体的・対話的で深い学び」と相似形を成すものであり、教師自身の学びについても転換を図っていくことが必要であることが示されました。

これらを効率的、効果的に実現していくために、「全国教員研修プラットフォーム（Plant）」が構築され、令和６年度より稼働していて、市としての運用準備が整ったため、１１月より運用を開始します。

通級指導教室実践検討会③

令和６年 10 月 28 日（月）午前９時 30 分～午前１１時 30 分に通級指導教室実践検討会③を行いました。講師は発達支援ルームまなび　今村　佐智子　理事で、２中学校の実践報告について、参加者のグループ討議と講師による指導・講評をいただきました。

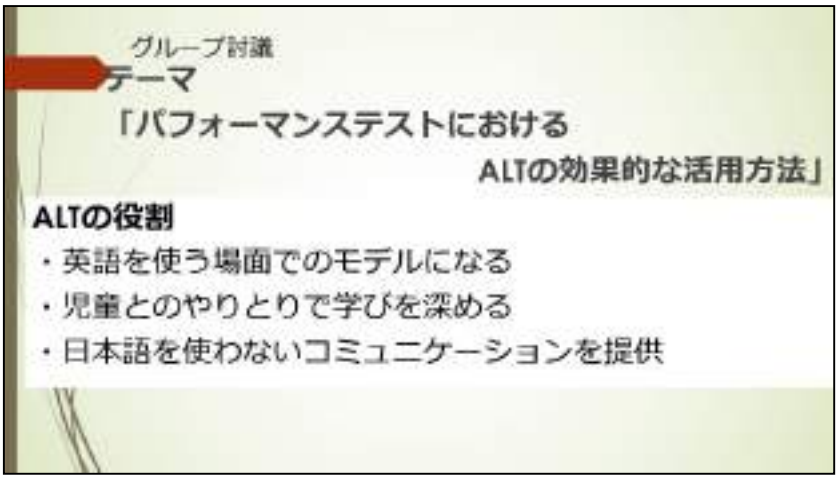
＜受講者感想＞

・ソーシャルスキルのトレーニングには悩んでいたので、自分の学校のことのように聞いていた。今まさに、「自分が良くても人も同じとは限らない」という内容を取り組もうと考えていたので、とても参考になった。友達を思っている気持ちを伝えることも練習していこうと思う。

・取り組みとして成功している部分が多く、自分の実践にも参考にできる点が多いと感じた。特に、同じような傾向がみられる生徒を通級で指導しているので、できることは明日から実践していきたい。

・聞きながらメモする力、スピーチ力、人間関係力を通級でつけさせることなど。中学校では、自己理解力をつけてやるべきということを学べました。小学校でも大切なので、高学年の児童に実践していきたい。

小学校外国語教育担当者会及び 小学校「外国語活動」「外国語」授業づくり研修②



令和６年１０月２８日（月）午後３時～午後５時に小学校外国語教育担当社会及び小学校「外国語活動」「外国語」授業づくり研修②を行いました。講師は関西大学の　竹内　理　教授で、研修テーマは「外国語の授業におけるパフォーマンステストの充実～ルーブリックの作成を通して～」

←研修資料の一部

＜受講者感想＞

・〃ALT の先生にも子どもと積極的に関わりをもっていただきながら授業をつくることが大切だと分かった。ルーブリックを見せた上で、何回もテストを受けていいように変えていき、その都度フィードバックを大切に行っていきたいです。〃

・英語の授業を行う際、パフォーマンステストをする前の準備が非常に大切であるとがわかった。パフォーマンステストをする際、ルーブリックにそって、何に力を入れるのか、また初めにモデルを見せて点数を表示することにより、子どもたちに分かりやすく説明することが納得できた。パフォーマンステストは、一度ではなく、何度も行うことも良い方法だと知った。

・たくさんの学校の動画を見ることができ、とても勉強になった。ルーブリックの大切さ、もっとシンプルでわかりやすいものでいいということが分かった。成績をつけるにあたっては、課題となることもまだまだあるが、今回学んだことを活かしていけたらと思う。

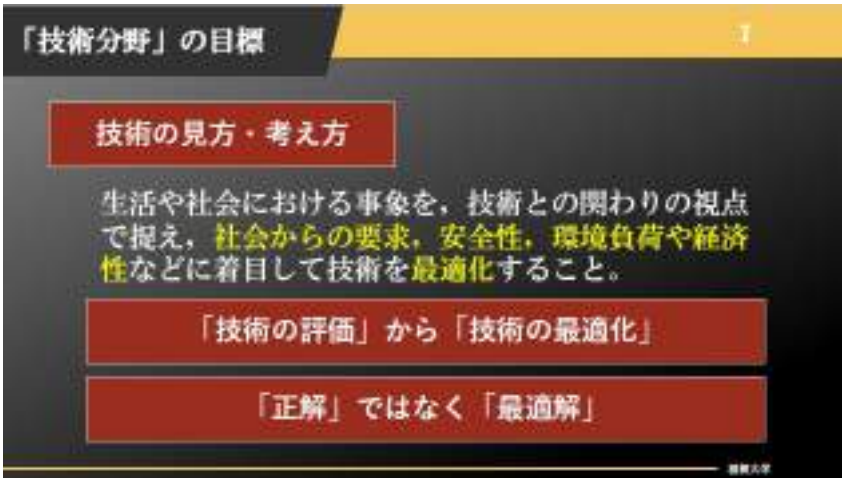
幼児教育研修＜ミドルリーダーステージ研修②＞

令和６年１０月２９日（火）午後３時～午後５時に幼児教育研修＜ミドルリーダーステージ研修②＞を水道局大会議室で行いました。講師は大阪教育大学　戸田　有一　教授で、研修テーマは「ともに育ち合う人材育成」です。

＜受講者感想＞

・グループワークでは自分自身の価値観と向き合うことと同時に、周りの人（同僚）の考えを知ることができた。その中で改めて保育の中で大切にしていきたいことや「子どもたちにとって」という視点などを考え合う、良い機会になった。
・相手のことを知る、相手の思いに寄り添うことが人材育成につながるということが分かった。明日から実践していきたい。
・今日の研修で、一番心に残ったことは「人を変えるのではなく、場を変えていくことが大切である」ということだ。「喜ばれて、喜ぶ」職場づくりを心掛けていきたい。

「技術」授業づくり研修



令和６年 10 月 29 日（火）午後３時 30 分～午後５時に「技術」授業づくり研修を行いました。講師は滋賀大学教職大学院　河野　卓也　教授で、研修テーマは「子どもたちが主体的に学び合える技術科の授業づくり」です。

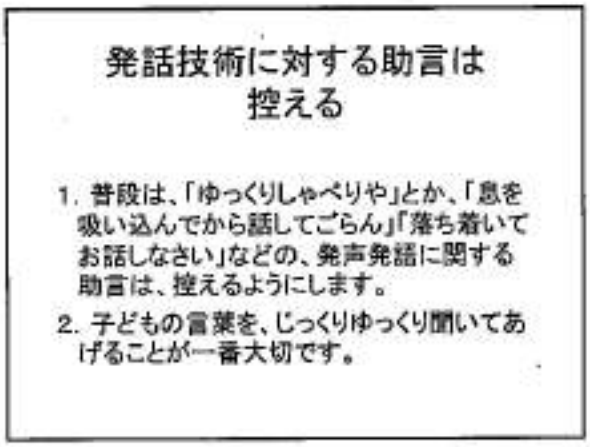
←研修資料の一部

＜受講者感想＞

・普段から私が考える「技術科の授業で身につけさせたい力」をより具体的にイメージすることができた。例えばものづくりをすることが目的ではなく、その過程で得られる気づきや、あるいは失敗から学んだことなどを、生徒が社会に出たあとに役立たせられるようにしていきたい。また実践事例を拝見して、私自身も話を聞いているだけでもワクワクした。こういった考えるだけでも高揚する気持ちや、未来について議論する時間などを、授業の中で体験させたいと感じた。
・たくさんの事例を紹介いただいた中で、自分もその多くを同じように指導してきた。しかし最後に生徒に考えさせる部分については、自分の授業の不十分さを感じた。生徒に実感を持って理解させることなど、自分自身の授業を改善していきたい。
・講義の中で紹介していただいた書籍等については。是非読んでみたいと思う。また、「生徒につけたい力を明確にし、堂々と失敗を恐れずに」という内容が印象に残った。

通級指導教室担当者会

令和６年 10 月 30 日（水）午前９時３０分～午前１１時３０分に通級指導担当者会を行いました。講師は八尾市児童発達支援第一センター言語聴覚士　奥野　真理子　さんで、研修テーマは「言語障がいについて　～構音障害・吃音を中心に～」です。



←研修資料の一部

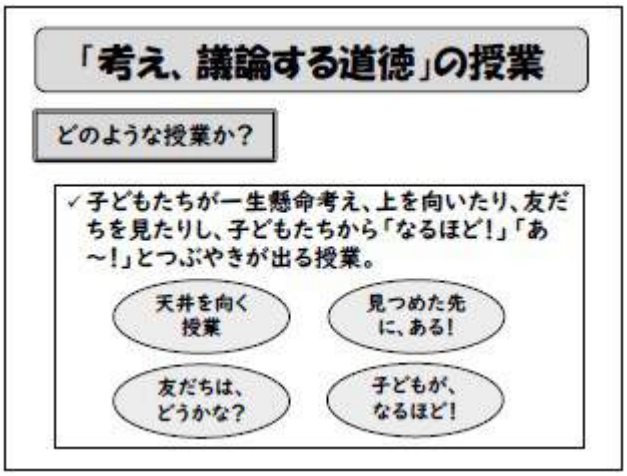
＜受講者感想＞

・構音障害の児童・保護者と共に講師先生の所を訪れ、アセスメントと家庭でできる指導法を教えていただき、それを通級で取り入れたところ、大変効果が出て半年かからず明瞭に話ができるようになった。その時教えていただいた技術やアセスメントの仕方が、非常に分かりやすく勉強になった。今日の講義でも、それらの内容を再認識することができた。

・言語聴覚士のトレーニングの話しが聴けて、とても参考になった。訓練そのものは私たちが同じようにできるものではないが、少しでも、子どもの課題が解消できるよう明日からも指導を頑張ろうという気持ちにさせてもらった。

・言語聴覚士としての仕事内容について知ることができた。学校でも言語の課題がある児童がいるので、教員の立場としてどんな支援方法があるのか学びを深めていきたい。今回の講義では、音の弁別の大切さがわかったので、児童に対してしてはいけない指導に気を付けることと合わせてできるようにしたい。

「道徳」授業づくり研修①



令和６年１１月１日（金）午後３時３０分～午後５時に「道徳」授業づくり研修①を行いました。講師は畿央大学　島　恒生　教授で研修テーマは「深い学びのある道徳科の授業づくり」です。

←研修資料の一部

＜受講者感想）

・道徳科の授業の計画をどのように立てていくのか、どのような進め方をしていけばよいのかがよくわかった。今までの自分のやり方では、道徳的価値に繋がる目当てをしっかりと立てられていなかったのかもしれないと反省した。また、教師の発問の仕方・間の取り方一つで子どもたちの理解がグッと深くなることを実感し、さらに授業の制度を高めていこうと思った。

・めあてと考えさせるポイント、時間や板書・教師の問い返しや意見の拾い方など、道徳の授業づくりに活かすとともに、他の授業でもとても役立つと感じた。今自分の行っている授業を見直して、より良く改善していきたいと思った。

・話すスピードやロールプレイの始め方、終わり方、ねらいへの迫り方など自分が気づかなかった良さを知ることができた。明日からの授業で実践していきたい。

教育センター「情報公開コーナー」

教育センターＢ棟（東側）の２階に「情報公開コーナー」があります。各種教育関係図書・雑誌等を配架しています。もちろん「教科書センター」として八尾市で採択している教科書や他社の教科書もあります。研修等で来所された時に直接ご覧いただければ幸いです。教科書・その他書籍・雑誌等も２週間の貸し出しを行っております。今回は１０月から１１月に配架した雑誌の誌名と目次の一部を紹介いたします。

「こころの科学」（日本評論社）１１月号
・特別企画　双極症と生きる

「そだちの科学」（日本評論社）１０月号
・特集　愛着障害と発達軌跡

「月刊学校教育相談」（ほんの森出版）１１月号
・特集１　グループワークやペアワークが苦手な子
・特集２　チーム担任制で教育相談の機能を高める

「指導と評価」（日本教育評価研究会）１１月号
・特集１　学習評価（３）評価方法
　　―ペーパーテスト、記述式問題、パフォーマンス評価×妥当性・信頼性

２頁に「巻頭言」として、「わが国の学習評価で忘れられがちな『妥当性』」と題して、教育評価総合研究所の　鈴木　秀幸　代表理事が寄稿されています。大学入試に活用されるセンター試験が始まったころから、その問題形式である多岐選択式が高校の授業に悪影響を及ぼしたと述べておられます。当時高校の社会の教員をされていた著者は、定期試験で（生徒から）「書かせる問題はやめてほしい」という要望が高まり、授業のなかでも「記述式」問題にかかわるような解説については真剣に聞こうとはしなくなったと感じられたそうです。センター試験で多岐選択式が導入された理由は、採点における公平性を担保するためで、評価の信頼性（評価者間の信頼性）を確保することが最も重視されました。その結果、「テストに出ない学力はもはや生徒はそのような学習は重要とは考えない」ようになってきたそうです。
本編では　鈴木　秀幸　さんが「妥当性・信頼性と評価技法」について述べられているほか「ペーパーテストで使用される客観テストの特徴」「客観性（間主観性）と評価技法」「『パフォーマンス評価』の妥当性と信頼性を問う―理科と外国語科の事例をもとに」「フランスのバカロレア試験における論述試験の信頼性確保の取組」「目標準拠評価のためのテストの妥当性・信頼性―中学校数学の一元一次方程式のテスト問題例を通して」などの記事が掲載されていて、特集の内容について考えを深めることができます。（葭仲）

・特集２　学校におけるトラウマインフォームドケア

「道徳教育」（明治図書）１１月号
・特集　生成 AI と道徳教育　どう教える？どう生かす？

「特別支援教育」（文部科学省編集・東洋館出版社）令和６年秋 №９５
・特集 自立活動の指導の充実

２頁に「巻頭言」として、「きかんしゃトーマスの世界観と進化―誰もが個性豊かで多様な世界とは」と題して、マテル・インターナショナル株式会社マーケティング部の　小林　真弓　さんが寄稿されています。マテル・インターナショナル株式会社は「きかんしゃトーマス」の版権を持つ会社です。１９４５年にイギリスで誕生した「きかんしゃトーマス」は絵本に始まり、テレビやアニメ、映画の世界へと広がりをみせています。約８０年間、多様性や普遍性を尊重しながら進化してきました。今では日本、中国、アフリカ、インド、オーストラリア、スペインの機関車や列車が登場しています。そして２０２３年から始まった新シリーズには自閉症のキャラクター「ブルーノ」が登場しました。ブルーノは「ブレーキ車」です。役割は重い貨物列車などが暴走しないように止めることです。列車の最後尾に後ろ向きに連結され、逆走は日常です。ブルーノは物静かでありながらダジャレが好きでスケジュールをしっかり守ります。ブルーノのキャラクター開発は自閉症の作家や当事者団体などが関わっています。物語ではありのままのブルーノが、生き生きと社会に貢献しています。この物語には次の３つのメッセージが含まれています。
１．多様性・・・性格や性別など違いを尊重することの大切さ。　２．共感性・・・他人の気持ちを理解する方法を学ぶこと。　３．やさしさ・・・他人を思いやり親切にすること。子どもだけでなく大人も含めた社会への普遍的なメッセージです。　（葭仲）

「特別支援教育研究」（全日本特別支援教育連盟編集・東洋館出版社）11 月号
・特集　自立活動ってなんのため？～自立活動の見方で変わる～

「初等教育資料」（文部科学省編集　・（株）東洋館出版社）１１月号
・特集Ⅰ　幼児教育と小学校教育の円滑な接続の推進・充実
・特集Ⅱ　[理科]学習指導要領における指導のポイント
問題解決の力の育成に向けた理科の指導の工夫

「中等教育資料」（文部科学省編集・学事出版）11 月号
・特集　［中学校］各教科等を交えて語り合う②～主体的・対話的で深い学び～

教育科学「国語教育」（明治図書）１１月号
・特集　説明文の授業づくり全解説

教育科学「社会科教育」（明治図書）１１月号
・特集　地理的技能×見方・考え方　を育てる授業アップデート